

科目名	生物基礎	単位数	2 単位	実施予定授業数	70時間
-----	------	-----	------	---------	------

☆学習の到達目標

学習の 到達目標	生物や生物現象に関わり、理科（科学）の見方・考え方をはたらかせ、見通しを持って観察、実験を行うことなどを通して、生物や生命現象を科学的に探究するために必要な能力・資質を以下の通り育成することを目指す。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生命現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。 【知識・技能】 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養っている。【思考力・判断力・表現力】 (3) 生物や生命現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養おうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 あわせて1年次においては、生徒の進路選択に資する興味関心の喚起を目指す。
使用教科書・ 副教材 等	教科書 「高等学校 生物基礎」 第一学習社 図 説 「ニューステージ新生物図表」 浜島書店 問題集 「標準セミナーノート生物基礎」 第一学習社 ※長期休業に併せ問題集購入

☆学習計画および評価方法

学期	学習内容	月	学習のねらい（評価の基準）	時数
第1学期	導入 第1編 生物の特徴	4	学習方法，ノートの取り方，探究活動の進め方，課題，座席等についての指導。 第1編「生物の特徴」 生物の特徴についての観察，実験などを通して，次の事項を身に付けている。 (1) 生物の特徴について，以下のことを理解するとともに，それらの観察，実験などに関する知識を身に付けている。【知識・技能】 (2) 生物の特徴についての観察，実験などを通して探求し，多様な生物が持つ共通の特徴を見出して表現している。【思考力・判断力・表現力】 (3) 生物や生命現象に主体的に関わり，科学的に探求しようとする態度と生命を尊重し，自然環境の保全に寄与する態度を養おうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】	28
	第1章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性	5	1. 生物の特徴（教科書 第1編 第1章） 第1節 生物の共通性 さまざまな生物，細胞の観察，実験による比較に基づいて，生物は多様でありながら共通性ともっていることを見つけ出し，それを理解している。生物の共通性と多様性を生物の進化と関連付けて理解している。	
	2. 生物とエネルギー		第2節 生物とエネルギー 細胞とエネルギーに関する資料に基づいて，生命活動にはエネルギーが必要であること，そのエネルギーと生体内での代謝を関連付けて理解する。代謝に関わる実験や資料に基づいて，呼吸と光合成をATP，酵素と関連付けて理解している。	
	第2章 遺伝子とその働き 1. 遺伝子の本体と構造 2. 遺伝情報とタンパク質	6	2. 遺伝子とその働き（教科書 第1編 第2章） 第1節 遺伝子の本体と構造 DNA構造に関する資料に基づいて，遺伝情報を担う物質としてのDNAの二らせん構造を理解しているとともに，遺伝情報がDNAの塩基配列であることを理解している。 第2節 遺伝情報とタンパク質 DNAの半保存的複製と細胞周期の進行に伴って，遺伝情報が正確に2つの細胞に分配されることを関連付けて理解している。	
	【知識・技能】○定期テスト（80%） ○課題・授業プリント（20%）			
【思考・判断・表現】○定期テスト（80%） ○実験・観察レポートの記述内容（20%）				
【主体的に学習に取り組む態度】○実習・観察レポートの記述内容（60%） ○課題・授業プリントの記述内容（40%）				
【1学期の評価方法】【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に取り組む態度】をそれぞれ数値化し，各40%：40%：20%の割合で総括し，10段階評定とする。				

学 期	学 習 内 容	月	学習のねらい（評価の基準）	時 数
第 2 学 期	第2編 ヒトのからだの調節 第3章 ヒトのからだの調節 1. 情報の伝達と体内環境の維持 2. 体内環境の維持のしくみ 3. 免疫のはたらき	7	遺伝情報の発現に関する資料に基づいて、DNAの塩基配列によってタンパク質のアミノ酸配列が決まることを理解し、遺伝的に同一な細胞が、機能に応じて発現している遺伝子が異なることを理解している。 3. 生物の特徴に関する探究活動 生物の特徴に関する探究活動を行い、学習内容の理解を深めるとともに、生物学的に探究する能力を高めようとしている。	30
		8	第2編「ヒトのからだの調節」 ヒトをはじめとする生物の体の調節についての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けている。 (1) ヒトをはじめとする生物の体の調節について、次のことを理解しているとともに、それらの観察、実験などの技能を身に付けている。【知識・技能】 (2) ヒトをはじめとする生物の体の調節についての観察、実験などを通して探求し、神経系と内分泌系による調節及び免疫などの特徴を見出して表現している。【思考力・判断力・表現力】 (3) 生物や生命現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度と生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養おうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】	
		9	1. ヒトのからだの調節（教科書 第2編 第3章） 第1節 情報の伝達と体内環境の維持 体内での情報伝達に関わる自律神経系と内分泌系による情報伝達によって体の状態が調節されていることを理解している。自律神経系とホルモンのはたらきによって体内環境が一定に維持されていることを理解している。	
		10	第2節 免疫 免疫というからだの防御機構を理解し、免疫と病気、医療への応用を関連付けて理解している。	
		11	2. ヒトの体内環境の維持に関する探究活動 ヒトの体内環境の維持に関する探究活動を行い、学習内容の理解を深めるとともに、生物学的に探究する能力を高めようとしている。	
【知識・技能】○定期テスト（80%） ○課題・授業プリント（20%）				
【思考・判断・表現】○定期テスト（80%） ○実験・観察レポートの記述内容（20%）				
【主体的に学習に取り組む態度】○実習・観察レポートの記述内容（60%） ○課題・授業プリントの記述内容（40%）				
【2学期の評価方法】【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に取り組む態度】をそれぞれ数値化し、各 40%：40%：20%の割合で総括し、10段階評定とする。				

学 期	学 習 内 容	月	学習のねらい（評価の基準）	時 数
第 3 学 期	第3編 生物の多様性と生態系	12	第3編「生物の多様性と生態系」 生物の多様性と生態系についての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けている。 (1) 生物の多様性と生態系についての次の事柄を理解するとともに、それらの観察・実験等に関する技能を身に付けている。また、生態系の保全の重要性について認識している。【知識・技能】 (2) 生物の多様性と生態系についての観察、実験などを通して探求し、生態系における生物の多様性及び、生物と環境との関連性を見出して表現している。【思考力・判断力・表現力】 (3) 生物や生命現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度と生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養おうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】	12
	第4章 生物の多様性と生態系 1. 植生と遷移 2. バイオーム	1	1. 植生と遷移（教科書 第3編 第4章） 第1節 植生と遷移 植物の植生や遷移に関する資料に基づいて、植生の成り立ちや相観について理解し、植生が時間の経過とともに移り変わっていくことを理解し、その要因を見出して理解している。 第2節 バイオーム 世界や日本のバイオームに関する資料に基づいて、各地に多様なバイオームが成立していることを理解し、気候条件による遷移の結果として森林のほかにも草原、荒原にもなることを関連付けて理解している。	
	第5章 生態系とその保全 1. 生態系と生物の多様性 2. 生態系のバランスと保全	2	2. 生態系とその保全（教科書 第3編 第5章） 第1節 生態系と生物の多様性 生態系と生物の多様性に関する資料に基づいて、生態系の成り立ちとそれを構成する生物どうしの関係が種多様性の維持に関わっていることを関連付けて理解している。 第2節 生態系のバランスと保全 生態系のバランスに関する資料に基づいて、生態系のバランスと人間活動が生態系に及ぼす影響について関連付けて理解している。また、生態系の保全の重要性について理解している。 3. 生物の多様性と生態系に関する探究活動 生物の多様性と生態系に関する探究活動を行い、学習内容の理解を深めるとともに、生物学的に探究する能力を高めようとしている。	
	【知識・技能】○定期テスト(80%) ○課題・授業プリント(20%)			
	【思考・判断・表現】○定期テスト(80%) ○実験・観察レポートの記述内容(20%)			
	【主体的に学習に取り組む態度】○実習・観察レポートの記述内容(60%) ○課題・授業プリントの記述内容(40%)			
	【3学期の評価方法】【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に取り組む態度】をそれぞれ数値化し、各40%：40%：20%の割合で総括し、10段階評定とする。			
	〔年間の学習状況の評価方法〕各楽器の【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に取り組む態度】をそれぞれ総括し、年間の5段階評定とする。			